



信念に基づいた行動で先手を打つ

3/15(月)修了式を行い、臨時休校からスタートした令和2年度が終わりました。今年度の授業日数は、臨時休校の分を補うために夏休みを短縮したりしましたが、例年より2週間分少ない194日でした。市連合運動会や地区総体等実施できなかった行事がありましたが、その他の行事は感染症予防に配慮しながら、内容を工夫して実施してきましたし、授業も予定された内容を完了しています。日数は少なくとも、密度が濃い一年だったということです。

コロナ禍によって、リモートワークやオンライン学習などが広まってきましたが、画面を通してのやり取りは、人と人が直接関わることで得られる学びや経験には及ばないようです。幅広い個性を持った人たちが関わり合うと、個性がぶつかりトラブルになることもありますが、お互いに自分が持っていないものを学び合うことができるからです。学校は、まさに違う個性を持つもの同士が互いに磨きあって人間として成長する場です。一年を終えるにあたり、自分を成長させてくれた仲間感謝したいものです。

コロナ禍はいずれ終息するでしょうが、その後待っているのは予測不能な激動の時代でしょう。そのような時代を生き抜くのに必要なのは、自分で考え判断し行動する主体性です。ただし、主体性には2種類あります。一つは外発的主体性で、やる気の源が自分の外にある主体性です。例えば、「勉強する」のはテストで良い点数を取って褒められたり試験に合格したりしたいから、というのがこれにあたります。もう一つは内発的主体性で、やる気の源が自分の中にあります。この場合「勉強する」のは、それを「学ぶのが楽しいから」ということになります。どちらも「自らすすんで勉強する」ことに違いはありませんが、前者は環境に左右されてしまいます。受験勉強を必死でやっていたのに、志望校の定員割れが分かったとたんやる気がなくなるというのはその典型です。一方、学ぶのが楽しくて勉強しているのであれば、定員割れしようが関係なく意欲的に勉強を続けられるはずです。

もちろん、外発的主体性も必要ですが、それは、外から課題を与えられないとやる気が起動できない構造なので、変化に対して後手に回る宿命にあります。ですから、外発的主体性だけだと激しい変化についていけません。予測不能な時代においては、「これまで通り」とか「周りに倣って」とかは通用しないので、課題が与えられなくても正しく判断し行動する、つまり変化の先を読んで先手を取ることが求められます。だから、内発的主体性が重要になるのです。

内発的な主体性を起動させるのは、己の中にある信念です。環境がどう変わろうと己の信念に基づいて自分で考え判断し正しい行動ができる。そんな人になるために、内発的主体性を磨き鍛えていってほしいと思います。



学年代表のまどめの言葉
1年 菊地結心さん 2年 前田向日葵さん
3年 小関心響さん

16日 第11回卒業式

3月16日(火)、73名の三年生が学び舎を旅立ちます。感染症予防対策の為、参列者を絞ったり内容を簡素化したりと様々な制約がある中でこの式になりますが、職員・在校生一同、心を込めて生徒たちの門出を祝福いたします。進む道は様々ですが、予測不能な時代にあっても、卒業生の前途に幸多きことを願っています。

行事予定 3/16~3/31

- 3/16(火) 卒業証書授与式
- 17(水) 公立高校合格発表
- 26(金) お別れの会

9年間皆勤おめでとう

次の3名は、義務教育の9年間皆出席でした。
金原しずさん 関口翔大さん 榮 美紅さん
本人の努力と、支えてくださったご家族に、心から拍手を贈ります。